

2017/4/13

柏の景気情報（平成29年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成29年3月分）

○ 調査期間 : 平成29年3月24日 ~ 平成29年4月5日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	75	46.2%
建設	44	20	45.5%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	22	51.2%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月連続で改善、マイナス幅が縮小。先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△12.5(同▲23.0)であり、プラス幅が35.5ポイント拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲20.0)である。変わらない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「保険金や電気代などの必要経費を見直し、コスト削減を図っている。」(内装工事業)、「百貨店やコンビニなどの統合が続く、地域の小売店が減少していく様子は、怖いものを感じる。柏の地域が持つ観光資源などを最大限に活用し、若者の集う活気ある街を目指し、街の先を考えていく必要がある。」(一般土木建築工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高傾向により、採算に影響が出ている。」(織物業)、「年度末の時期だが官庁関連の受注状況が良くない。民間の春のイベント等の需要増に期待したい。」(印刷業)、「事業内容が多様化し、デジタル主体の波が押し寄せる時流の中で、世代交代の様に新旧が入り替わる時期こそ、社内でのコミュニケーションが重要になってくる。」(印刷業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料業界では中小メーカーの倒産話が多く入ってきており、取引先の一社が先日倒産し、業況の悪化が深刻化している。」(婦人・子供服小売業)、「昨年3月は中旬に20℃を超える日があったが、今年は寒い日が続いた影響で衣料品の買い替え需要はあまり無く、衣料の売上不振となり春物の値下げが拡大。気温の影響で桜の開花が遅れ3月下旬に花見需要は少なく、関連商品の売上は上昇せず。春分の日の3連休は天候に恵まれるも消費は低迷。プレミアムフライデー効果は0に等しい。」(その他の各種商品小売業)、「SNSの効果でひなまつり関連の受注が前年よりも増加した。」(菓子・パン小売業)、「店舗により増減はあったが、全体では売上は微増となった。」(菓子・パン小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新年度に向かい、従業員の確保は順調に出来たが、業務に適應できるか懸念がある。今後も長期間従事していただけるように教育をしていきたい。」(その他の飲食料品小売業)、「春闘を終えて夏のボーナスの見込みがついたこともあり、夏旅商戦が活発化している。注目の旅先や家族向け商品の発売・充実で販売に力を入れている。4/1に名古屋にオープンするレゴランド・ジャパンやJR東日本が実施するデスティネーションキャンペーン(7月～9月)対象の信州方面への旅行が見込まれる。」(旅行業)、「お客様からの問い合わせ数が安定してきている。また、問い合わせから契約までもスムーズにまとまっている。販売物件の確保が徐々に難しくなっている。」(不動産管理業)、「直近の計画として、ビルの経年劣化に対する設備更新、修繕費用の再投資を予定、資産価値の維持向上を図ることによって賃貸者のニーズに対応していく。」(不動産賃貸・管理業)、「年度末案件を消化中。市場ニーズに合った商品創りが急務となっている。来年度の計画を立て直す時期に来ていると考えている。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格の上昇があり、利益減少。」(酒場・ビヤホール)、「主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。」(食堂・レストラン)、などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少

各業種より、「仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で収益が減少し、長期的な見通しは不透明。」(電気工事業)、「先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。」(その他の職別工事業)、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「組立人員不足が発生しており、しばらく継続が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「市内を中心に出店ラッシュがあった昨年の影響をまだ若干受けている。それに加えて人手不足から来るコストのアップも引き続き大きな問題である。商品構成の見直しも急務である。」(各種食料品小売業)、「新規の学生アルバイトが集りにくい状況で、募集広告の費用が嵩む状況。」(酒場・ビヤホール)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
見通し	▲17.3	▲10.0	△5.8	▲54.5	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月連続で改善、マイナス幅が縮小。先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業▲12.5(同▲23.0)であり、プラス幅が35.5ポイント拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲20.0)である。変わらない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「保険金や電気代などの必要経費を見直し、コスト削減を図っている。」(内装工事業)、「百貨店やコンビニなどの統合が続く、地域の小売店が減少していく様子は、怖いものを感じる。柏の地域が持つ観光資源などを最大限に活用し、若者の集う活気ある街を目指し、街の先を考えていく必要がある。」(一般土木建築工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高傾向により、採算に影響が出ている。」(織物業)、「年度末の時期だが官庁関連の受注状況が良くない。民間の春のイベント等の需要増に期待したい。」(印刷業)、「事業内容が多様化し、デジタル主体の波が押し寄せる時流の中で、世代交代の様に新旧が入れ替わる時期こそ、社内でのコミュニケーションが重要になってくる。」(印刷業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料業界では中小メーカーの倒産話が多く入ってきており、取引先の一社が先日倒産し、業況の悪化が深刻化している。」(婦人・子供服小売業)、「昨年3月は中旬に20℃を超える日があったが、今年は寒い日が続いた影響で衣料品の買い替え需要はあまり無く、衣料の売上不振となり春物の値下げが拡大。気温の影響で桜の開花が遅れ3月下旬に花見需要は少なく、関連商品の売上は上昇せず。春分の日の3連休は天候に恵まれるも消費は低迷。プレミアムフライデー効果は0に等しい。」(その他の各種商品小売業)、「SNSの効果でひなまつり関連の受注が前年よりも増加した。」(菓子・パン小売業)、「店舗により増減はあったが、全体では売上は微増となった。」(菓子・パン小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新年度に向かい、従業員の確保は順調に出来たが、業務に適應できるか懸念がある。今後も長期間従事していただけるように教育をしていきたい。」(その他の飲食料品小売業)、「春闘を終えて夏のボーナスの見込みがついたこともあり、夏旅商戦が活発化している。注目の旅先や家族向け商品の発売・充実で販売に力を入れている。4/1に名古屋にオープンするレゴランド・ジャパンやJR東日本が実施するデスティネーションキャンペーン(7月～9月)対象の信州方面への旅行が見込まれる。」(旅行業)、「お客様からの問い合わせ数が安定してきている。また、問い合わせから契約までもスムーズにまとまっている。販売物件の確保が徐々に難しくなっている。」(不動産管理業)、「直近の計画として、ビルの経年劣化に対する設備更新、修繕費用の再投資を予定、資産価値の維持向上を図ることによって賃貸者のニーズに対応していく。」(不動産賃貸・管理業)、「年度末案件を消化中。市場ニーズに合った商品創りが急務となっている。来年度の計画を立て直す時期に来ていると考えている。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格の上昇があり、利益減少。」(酒場・ビヤホール)、「主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。」(食堂・レストラン)、などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少

各業種より、「仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で収益が減少し、長期的な見通しは不透明。」(電気工事業)、「先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。」(その他の職別工事業)、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「組立人員不足が発生しており、しばらく継続が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「市内を中心に出店ラッシュがあった昨年の影響をまだ若干受けている。それに加えて人手不足から来るコストのアップも引き続き大きな問題である。商品構成の見直しも急務である。」(各種食料品小売業)、「新規の学生アルバイトが集りにくい状況で、募集広告の費用が嵩む状況。」(酒場・ビヤホール)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
見通し	▲17.3	▲10.0	△5.8	▲54.5	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。

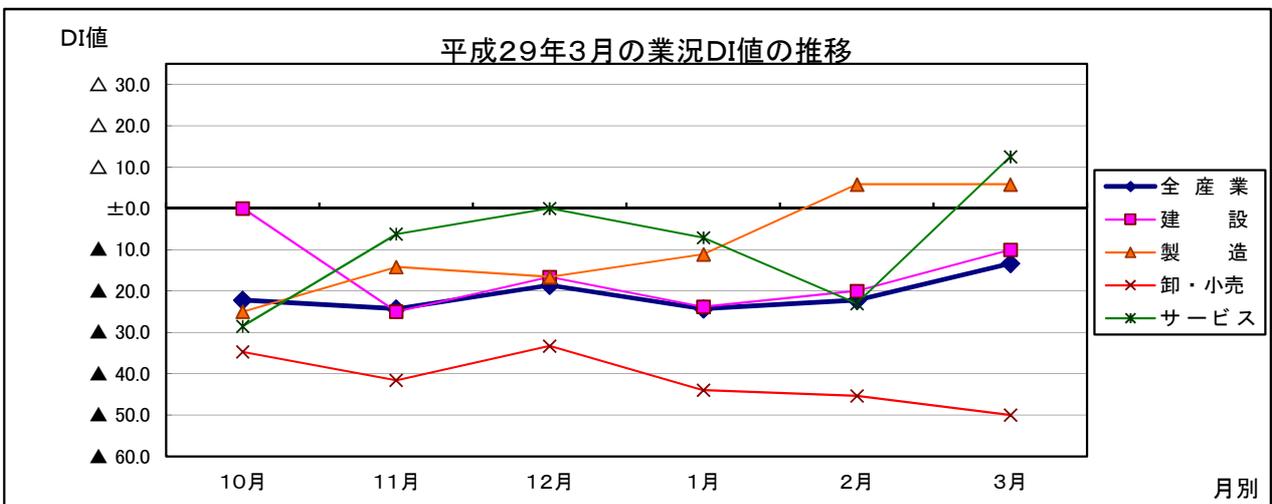
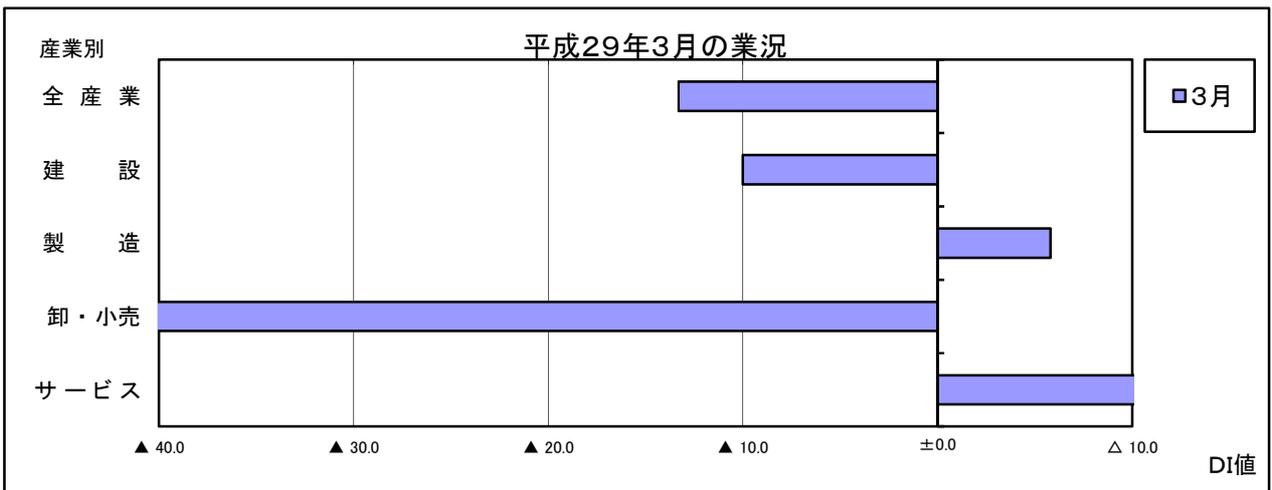
業種別では、前月水準と比べて、。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△12.5(同▲23.0)であり、プラス幅が35.5ポイント拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲20.0)である。変わらない業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲45.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲23.0)である。変わらない見通しの業種は、製造業△5.8(同△5.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲10.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲54.5(同▲40.9)である。

平成29年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲22.2	▲24.3	▲18.6	▲24.3	▲22.2	▲13.3	▲17.3(▲15.2)
建設	±0.0	▲25.0	▲16.6	▲23.8	▲20.0	▲10.0	▲10.0(±0.0)
製造	▲25.0	▲14.2	▲16.6	▲11.1	△5.8	△5.8	△5.8(△5.8)
卸・小売	▲34.7	▲41.6	▲33.3	▲44.0	▲45.4	▲50.0	▲54.5(▲40.9)
サービス	▲28.5	▲6.2	±0.0	▲7.1	▲23.0	△12.5	±0.0(▲23.0)



【平成29年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.6(同▲11.1)であり、マイナス幅が13.7ポイント縮小した。

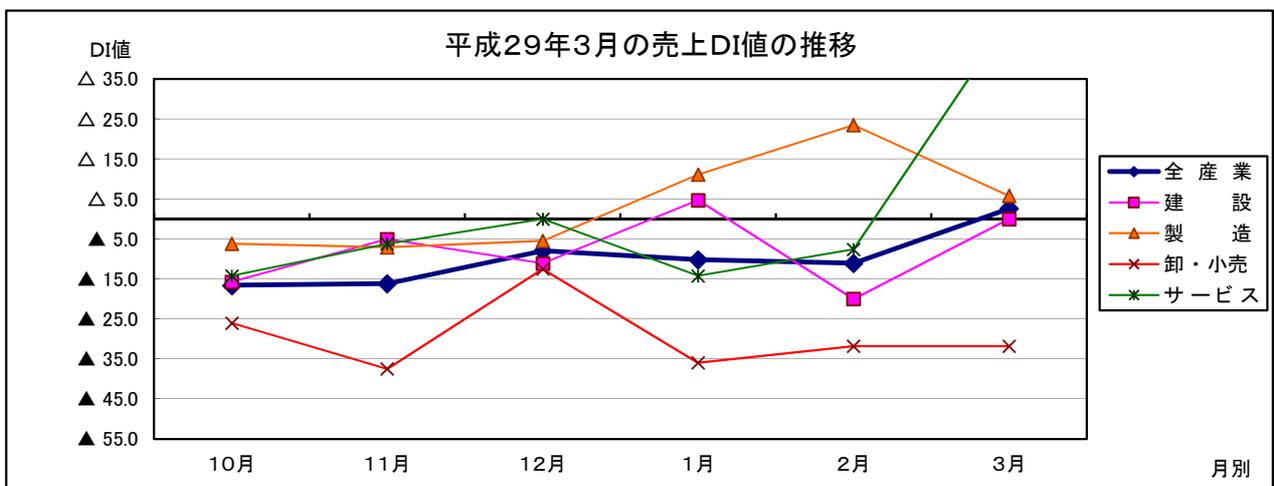
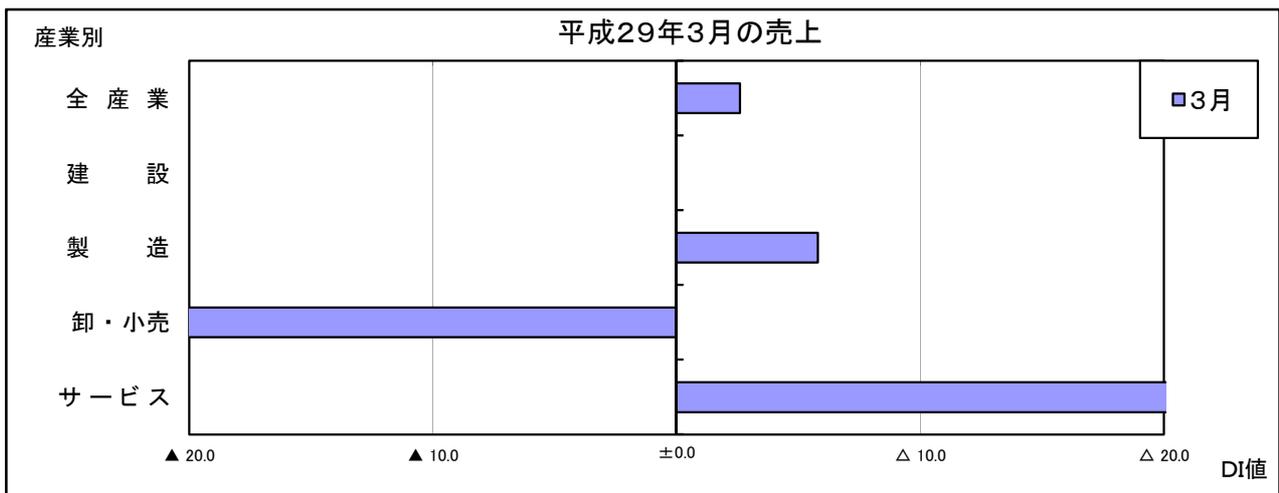
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業△50.0(同▲7.6)、建設業▲20.0(同△4.7)で、特にサービス業ではプラス幅が57.6ポイントと大幅に改善した。変わらない業種は、卸小売業▲31.8(同▲31.8)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.8(同△23.5)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が10.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△5.8(同△29.4)、サービス業△12.5(同△15.3)であり、特に製造業ではプラス幅が23.6ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.5(同▲40.9)、建設業▲20.0(同▲15.0)である。

平成29年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲16.6	▲16.2	▲8.0	▲10.2	▲11.1	△2.6	▲17.3(▲6.9)
建設	▲15.7	▲5.0	▲11.1	△4.7	▲20.0	±0.0	▲20.0(▲15.0)
製造	▲6.2	▲7.1	▲5.5	△11.1	△23.5	△5.8	△5.8(△29.4)
卸・小売	▲26.0	▲37.5	▲12.5	▲36.0	▲31.8	▲31.8	▲54.5(▲40.9)
サービス	▲14.2	▲6.2	±0.0	▲14.2	▲7.6	△50.0	△12.5(△15.3)



【平成29年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.6(前月水準▲16.6)であり、マイナス幅が2.0ポイント縮小した。

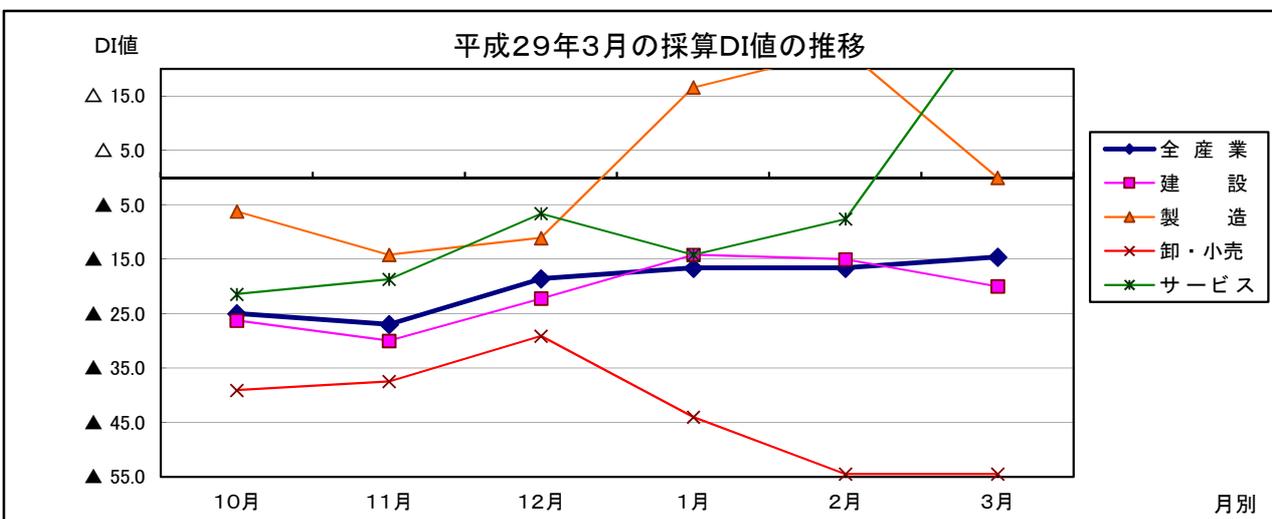
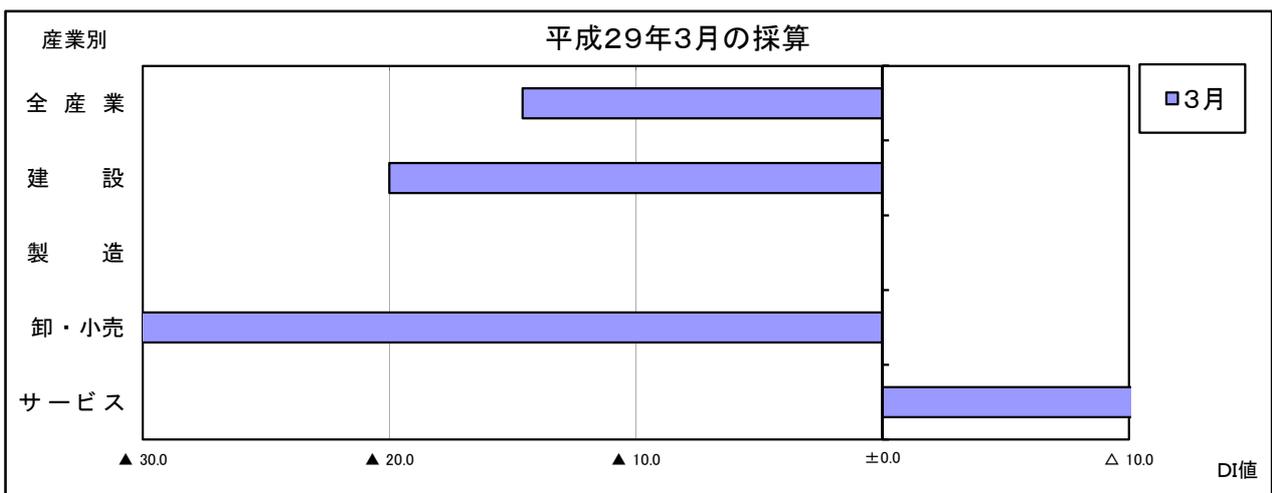
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△31.2(同▲7.6)であり、プラス幅が38.8ポイントと大幅に改善した。変わらない業種は、卸小売業▲54.5(同▲54.5)、である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲20.0(同▲15.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.0(前月水準▲15.2)であり、マイナス幅が12.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変わらない見通しの業種は、建設業▲15.0(同▲15.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同△23.5)、サービス業▲6.2(同±0.0)であり、特に製造業ではプラス幅が35.2と大幅に悪化した。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲54.5(同▲63.6)である。

平成29年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	1月	平成29年 2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲25.0	▲27.0	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲14.6	▲28.0(▲15.2)
建設	▲26.3	▲30.0	▲22.2	▲14.2	▲15.0	▲20.0	▲15.0(▲15.0)
製造	▲6.2	▲14.2	▲11.1	△16.6	△23.5	±0.0	▲11.7(△23.5)
卸・小売	▲39.1	▲37.5	▲29.1	▲44.0	▲54.5	▲54.5	▲63.6(▲54.5)
サービス	▲21.4	▲18.7	▲6.6	▲14.2	▲7.6	△31.2	▲6.2(±0.0)



【平成29年3月の仕入単価についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小した。

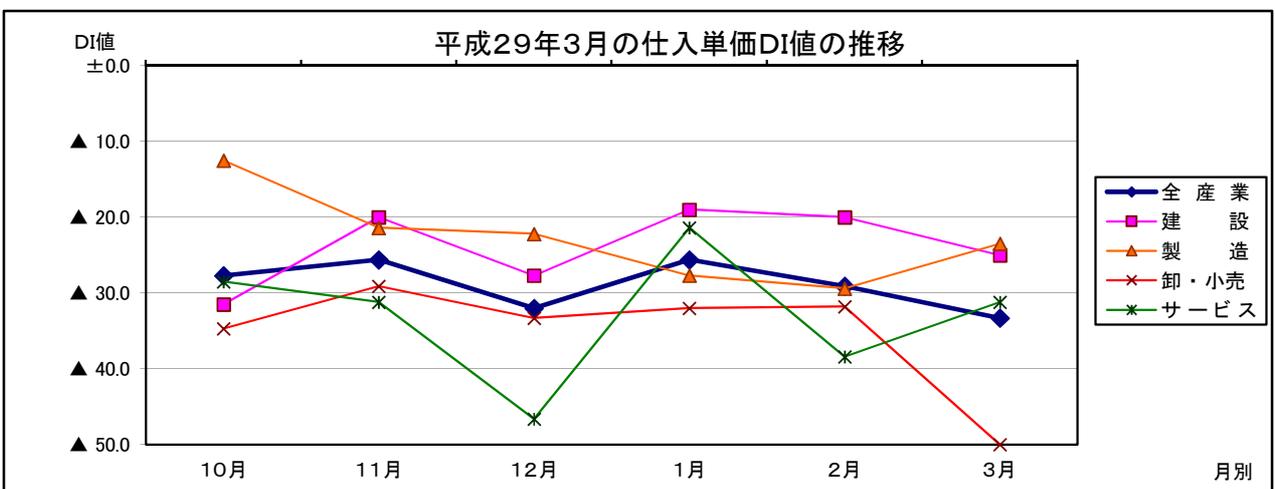
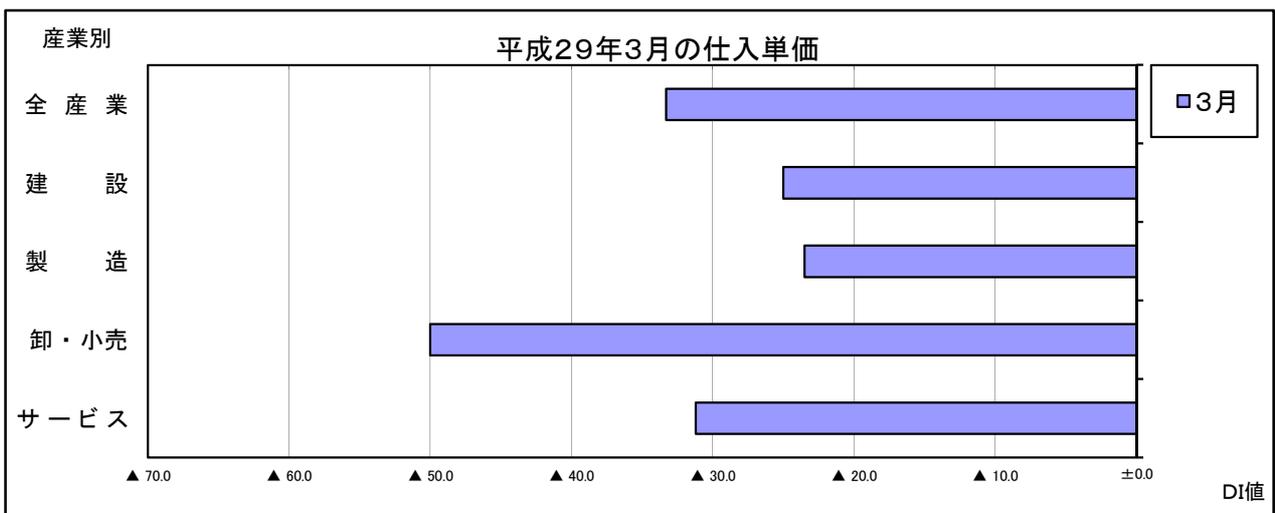
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲38.4)、製造業▲23.5(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.8(同▲50.0)、建設業▲25.0(同▲20.0)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.0(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲31.2(同▲38.4)である。変わらない見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲20.0)、卸小売業▲36.3(同▲36.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲23.5(同▲11.7)である。

平成29年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(2月~4月)
全産業	▲27.7	▲25.6	▲32.0	▲25.6	▲29.1	▲33.3	▲28.0(▲26.3)
建設	▲31.5	▲20.0	▲27.7	▲19.0	▲20.0	▲25.0	▲20.0(▲20.0)
製造	▲12.5	▲21.4	▲22.2	▲27.7	▲29.4	▲23.5	▲23.5(▲11.7)
卸・小売	▲34.7	▲29.1	▲33.3	▲32.0	▲31.8	▲50.0	▲36.3(▲36.3)
サービス	▲28.5	▲31.2	▲46.6	▲21.4	▲38.4	▲31.2	▲31.2(▲38.4)



【平成29年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、 $\Delta 21.3$ (前月水準 $\Delta 19.4$)となり、プラス幅が1.9ポイント拡大した。

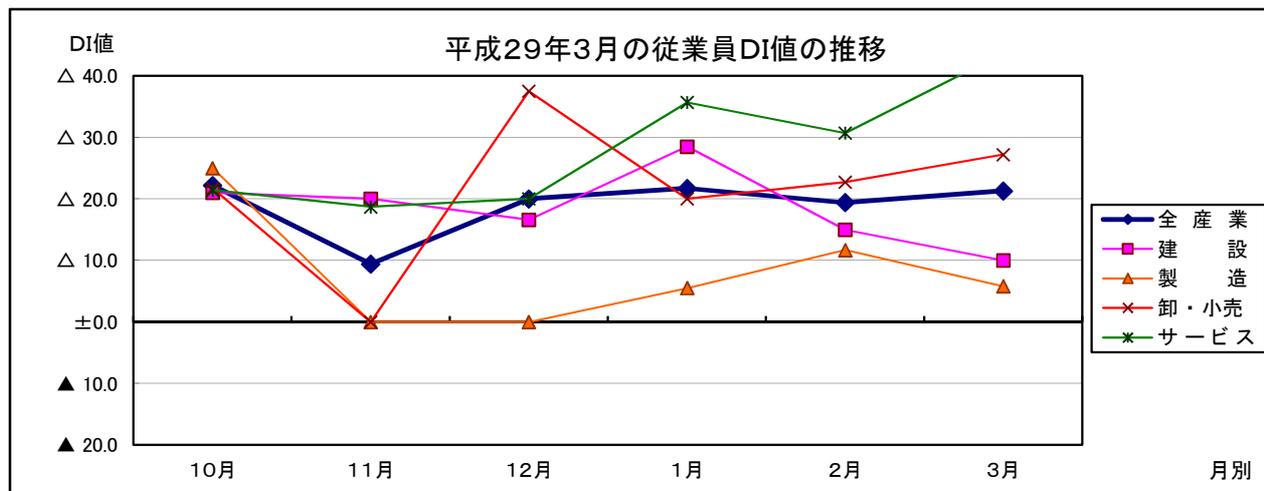
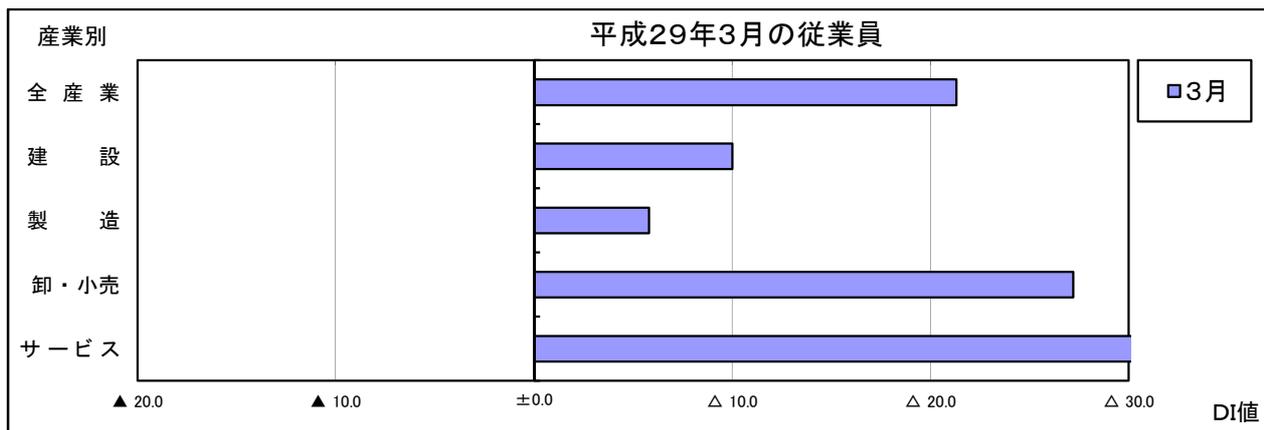
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業 $\Delta 43.7$ (同 $\Delta 30.7$)、卸小売業 $\Delta 27.2$ (同 $\Delta 22.7$)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業 $\Delta 5.8$ (同 $\Delta 11.7$)、建設業 $\Delta 10.0$ (同 $\Delta 15.0$)、である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、 $\Delta 20.0$ (前月水準 $\Delta 27.7$)であり、プラス幅が7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業 $\Delta 43.7$ (同 $\Delta 38.4$)、である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業 $\Delta 5.8$ (同 $\Delta 23.5$)、建設業 $\Delta 27.2$ (同 $\Delta 36.3$)、卸小売業 $\Delta 27.2$ (同 $\Delta 36.3$)である。

平成29年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	$\Delta 22.2$	$\Delta 9.4$	$\Delta 20.0$	$\Delta 21.7$	$\Delta 19.4$	$\Delta 21.3$	$\Delta 20.0$ ($\Delta 27.7$)
建設	$\Delta 21.0$	$\Delta 20.0$	$\Delta 16.6$	$\Delta 28.5$	$\Delta 15.0$	$\Delta 10.0$	$\Delta 5.0$ ($\Delta 15.0$)
製造	$\Delta 25.0$	± 0.0	± 0.0	$\Delta 5.5$	$\Delta 11.7$	$\Delta 5.8$	$\Delta 5.8$ ($\Delta 23.5$)
卸・小売	$\Delta 21.7$	± 0.0	$\Delta 37.5$	$\Delta 20.0$	$\Delta 22.7$	$\Delta 27.2$	$\Delta 27.2$ ($\Delta 36.3$)
サービス	$\Delta 21.4$	$\Delta 18.7$	$\Delta 20.0$	$\Delta 35.7$	$\Delta 30.7$	$\Delta 43.7$	$\Delta 43.7$ ($\Delta 38.4$)



【平成29年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.1(前月水準▲2.6)となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大した。

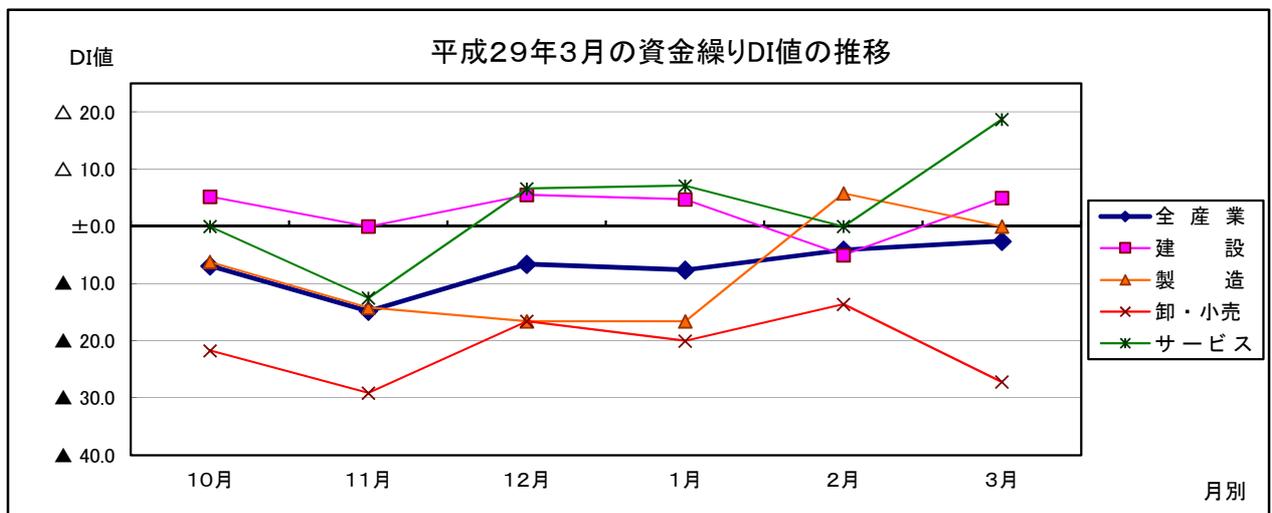
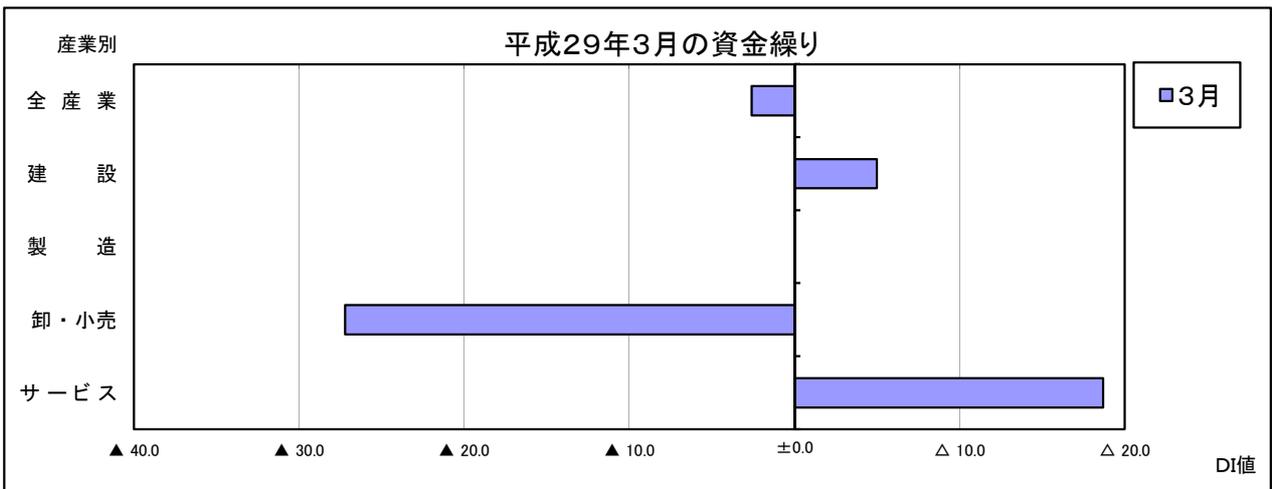
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△18.7(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△5.0(同▲5.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲27.2(同▲13.6)

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.3(前月水準▲1.3)となり、マイナス幅が6.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変わらない見通しの業種は、建設業△10.0(同△10.0)、製造業±0.0(同±0.0)、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲40.9(同▲13.6)である。

平成29年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲6.9	▲14.8	▲6.6	▲7.6	▲4.1	▲2.6	▲9.3(▲1.3)
建設	△5.2	±0.0	△5.5	△4.7	▲5.0	△5.0	△10.0(△10.0)
製造	▲6.2	▲14.2	▲16.6	▲16.6	△5.8	±0.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲21.7	▲29.1	▲16.6	▲20.0	▲13.6	▲27.2	▲40.9(▲13.6)
サービス	±0.0	▲12.5	△6.6	△7.1	±0.0	△18.7	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	△ 2.6	▲ 17.3	▲ 14.6	▲ 28.0	▲ 33.3	▲ 28.0	△ 21.3	△ 20.0
建設	±0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 20.0	△ 10.0	△ 5.0
製造	△ 5.8	△ 5.8	±0.0	▲ 11.7	▲ 23.5	▲ 23.5	△ 5.8	△ 5.8
卸・小売	▲ 31.8	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6	▲ 50.0	▲ 36.3	△ 27.2	△ 27.2
サービス	△ 50.0	△ 12.5	△ 31.2	▲ 6.2	▲ 31.2	▲ 31.2	△ 43.7	△ 43.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.3	▲ 17.3	▲ 2.6	▲ 9.3
建設	▲ 10.0	▲ 10.0	△ 5.0	△ 10.0
製造	△ 5.8	△ 5.8	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 50.0	▲ 54.5	▲ 27.2	▲ 40.9
サービス	△ 12.5	±0.0	△ 18.7	±0.0

【平成29年3月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で収益が減少し、長期的な見通しは不透明。	受注単価減少 先行き不安	電気工事業
	先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。	受注減少 売上減少 受注単価減少	その他の職別工事業
	保険金や電気代などの必要経費を見直し、コスト削減を図っている。	コスト削減	内装工事業
	百貨店やコンビニなどの統合が続き、地域の小売店が減少していく様は、怖いものを感じる。柏の地域が持つ観光資源などを最大限に活用し、若者の集う活気ある街を目指し、街の先を考えていく必要がある。	統廃合	一般土木建築工事業
製造業	円高傾向により、採算に影響が出ている。	円高 利益減少	織物業
	年度末の時期だが官庁関連の受注状況が良くない。民間の春のイベント等の需要増に期待したい。	受注減少	印刷業
	原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。	仕入価格高騰	特殊産業用機械製造業
	組立人員不足が発生しており、しばらく継続が懸念される。	人手不足	その他の機械・同部品製造業
	事業内容が多様化し、デジタル主体の波が押し寄せる時流の中で、世代交代の様に入替わり時期こそ、社内でのコミュニケーションが重要になってくる。	業務改善	印刷業
卸小売	衣料業界では中小メーカーの倒産話が多く入ってきており、取引先の一社が先日倒産し、業況の悪化が深刻化している。	業況悪化	婦人・子供服小売業
	昨年3月は中旬に20℃を超える日があったが、今年は寒い日が続いた影響で衣料品の買い替え需要はあまり無く、衣料の売上不振となり春物の値下げが拡大。気温の影響で桜の開花が遅れ3月下旬に花見需要は少なく、関連商品の売上は上昇せず。春分の日の3連休は天候に恵まれるも消費は低迷。プレミアムフライデー効果は0に等しい。	天候不順 売上減少(衣料・食品) プレミアムフライデー	その他の各種商品小売業
	市内を中心に来店ラッシュがあった昨年の影響をまだ若干受けている。それに加えて人手不足から来るコストのアップも引き続き大きな問題である。商品構成の見直しも急務である。	人手不足 競争激化 来店ラッシュ 業務改善	各種食料品小売業
	SNSの効果でひなまつり関連の受注が前年よりも増加した。	ひなまつり 受注増加	菓子・パン小売業
	店舗により増減はあったが、全体では売上は微増となった。	売上増加	菓子・パン小売業
サービス業	仕入価格の上昇があり、利益減少。新規の学生アルバイトが集りにくい状況で、募集広告の費用が高む状況。	仕入価格高騰 利益減少 人手不足	酒場・ビヤホール
	新年度に向かい、従業員の確保は順調に出来たが、業務に適應できるか懸念がある。今後も長期間従事していただけるように教育をしていきたい。	従業員教育	その他の飲食料品小売業
	主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。	仕入価格高騰	食堂・レストラン
	春闘を終えて夏のボーナスの見込みがついたこともあり、夏旅商戦が活発化している。注目の旅先や家族向け商品の発売・充実で販売に力を入れている。4/1に名古屋にオープンするレゴランド・ジャパンやJR東日本が実施するデスティネーションキャンペーン(7月～9月)対象の信州方面への旅行が見込まれる。	夏期商戦活発化(旅行)	旅行業
	お客様からの問い合わせ数が安定してきている。また、問い合わせから契約までもスムーズにまとまっている。販売物件の確保が徐々に難しくなっている。	受注増加 仕入商品不足(不動産)	不動産管理業
	直近の計画として、ビルの経年劣化に対する設備更新、修繕費用の再投資を予定、資産価値の維持向上を図ることによって賃貸者のニーズに対応していく。		不動産賃貸・管理業
	年度末案件を消化中。市場ニーズに合った商品創りが急務となってきた。来年度の計画を立て直す時期に来ていると考えている。	年度末需要	ソフトウェア業

◎仕入価格高騰

各業種より、「原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格の上昇があり、利益減少。」(酒場・ビヤホール)、「主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。」(食堂・レストラン)、などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少

各業種より、「仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で収益が減少し、長期的な見通しは不透明。」(電気工事業)、「先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。」(その他の職別工事業)、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「組立人員不足が発生しており、しばらく経費が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「市内を中心に出店ラッシュがあった昨年の影響をまだ若干受けている。それに加えて人手不足から来るコストのアップも引き続き大きな問題である。商品構成の見直しも急務である。」(各種食料品小売業)、「新規の学生アルバイトが集りにくい状況で、募集広告の費用が高む状況。」(酒場・ビヤホール)、などのコメントが寄せられた。

平成29年3月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.1で柏の方がマイナス幅が6.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.6に対し、「CCI-LOBO」が▲16.2で柏の方がプラス幅が18.8ポイント大きい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が良く、製造業、サービス業では、10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.6に対し、「CCI-LOBO」が▲17.4で柏の方がマイナス幅が2.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI-LOBO」が▲29.7で柏の方がマイナス幅が3.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△21.3に対し、「CCI-LOBO」が△19.4で柏の方がプラス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲2.6に対し、「CCI-LOBO」が▲9.3で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。業種別では、業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

平成29年3月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.3	 ▲ 10.0	 △ 5.8	 ▲ 50.0	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 20.1	 ▲ 9.6	 ▲ 12.8	 ▲ 40.5	 ▲ 14.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 2.6	 ±0.0	 △ 5.8	 ▲ 31.8	 △ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.2	 ▲ 8.2	 ▲ 11.1	 ▲ 37.1	 ▲ 9.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.6	 ▲ 20.0	 ±0.0	 ▲ 54.5	 △ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 17.4	 ▲ 9.1	 ▲ 11.4	 ▲ 33.4	 ▲ 17.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 33.3	 ▲ 25.0	 ▲ 23.5	 ▲ 50.0	 ▲ 31.2
CCI-LOBO	 ▲ 29.7	 ▲ 33.5	 ▲ 28.2	 ▲ 26.4	 ▲ 32.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 21.3	 △ 10.0	 △ 5.8	 △ 27.2	 △ 43.7
CCI-LOBO	 △ 19.4	 △ 21.2	 △ 8.5	 △ 26.6	 △ 25.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 2.6	 △ 5.0	 ±0.0	 ▲ 27.2	 △ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 9.3	 ▲ 3.5	 ▲ 7.7	 ▲ 20.2	 ▲ 7.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年3月24日～4月5日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数75件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
3月	▲13.3	▲10.0	△5.8	▲50.0	△12.5
見通し	▲17.3	▲10.0	△5.8	▲54.5	±0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは2ヶ月連続で改善、マイナス幅が縮小。先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く

3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△12.5(同▲23.0)であり、プラス幅が35.5ポイント拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲10.0(同▲20.0)である。変わらない業種は、

製造業△5.8(同△5.8)

である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「保険金や電気代などの必要経費を見直し、コスト削減を図っている。」(内装工事業)、「百貨店やコンビニなどの統合が続き、地域の小売店が減少していく様子は、怖いものを感じる。柏の地域が持つ観光資源などを最大限に活用し、若者の集う活気ある街を目指し、街の先を考えていく必要がある。」(一般土木建築工事業、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高傾向により、採算に影響が出ている。」(織物業)、「年度末の時期だが官庁関連の受注状況が良くない。民間の春のイベント等の需要増に期待したい。」(印刷業)、「事業内容が多様化し、デジタル主体の波が押し寄せる時流の中で、世代交代の様子が新入りが入れ替わる時期こそ、社内でのコミュニケーションが重要になってくる。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料業界では中小メーカーの倒産話が多く入ってきており、取引先の一社が先日倒産し、業況の悪化が深刻化している。」(婦人・子供服小売業)、「昨年3月は中旬に20℃を

超える日があったが、今年は寒い日が続いた影響で、衣料の売上不振となり春物の値下げが拡大。気温の影響で桜の開花が遅れ、3月下旬の花見需要は少なく、関連商品の売上は上昇せず。春分の日の3連休は天候に恵まれるも消費は低迷。プレミアムフライデー効果は0に等しい。」(その他の各種商品小売業)、「SNSの効果でひなまつり関連の受注が前年よりも増加した。」(菓子・パン小売業)、「店舗により増減はあったが、全体では売上は微増となった。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新年度に向かい、従業員の確保は順調に出来たが、業務に適切できるか懸念がある。今後も長期間従事していただけるよう教育をしていきたい。」(その他の飲食料点小売業)、「春闘を終えて夏のボーナスの見込みが良かったこともあり、夏旅商戦が活発化している。注目の旅先や家族向け商品の発売・充実で販売に力を入れていく。4月に名古屋にオープンするレゴランド・ジャパンやJR東日本が実施するデステイネーションキャンペーン(7月～9月)対象の信州方面への旅行が見込まれる。」(旅行業)、「お客様からの問い合わせ数が安定してきている。また、問い合わせから契約までもスムーズにまとまっている。販売物件の確保が徐々に難しくなってきた。」(不動産管理業)、「直近の計画として、ビルの経年劣化に対する設備更新、修繕費用の再投資を予定、資産価値の維持向上を図ることによって貸貸者のニーズに対応していく。」(不動産賃貸・管理業)、「年度末案件を消化中。市場ニーズに合った商品創りが急務となってきた。来年度の計画を立て直す時期に来ていると考えている。」(ソフトウェア業、などのコメントが寄せられた。

【3月の景気キーワード】

◎仕入価格高騰

各業種より、「原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格の上昇があり、利益減少。」(酒場・ビヤホール)、「主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少

各業種より、「仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で

収益が減少し、長期的な見通しは不透明。」(電気工事業)、「先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。」(その他の職別工事業、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「組立人員不足が発生しており、しばらく継続が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「市内を中心に出店ラッシュがあった昨年の影響をまだ若干受けている。それに加えて人手不足から来るコストのアップも引き続き大きな問題である。商品構成の見直しも急務である。」(各種食料品小売業)、「新規の学生アルバイトが集りにくい状況で、募集広告の費用が高む状況。」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

【CCI・LOBOとの比較】

全産業合計では、「柏の景気」が▲13.3に対し、「CCI・LOBO」が▲20.1

で柏の方がマイナス幅が6.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、

製造業△5.8(同△5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲50.0(同▲45.4)である。

【建設業】からは、「保険金や電気代などの必要経費を見直し、コスト削減を図っている。」(内装工事業)、「百貨店やコンビニなどの統合が続き、地域の小売店が減少していく様子は、怖いものを感じる。柏の地域が持つ観光資源などを最大限に活用し、若者の集う活気ある街を目指し、街の先を考えていく必要がある。」(一般土木建築工事業、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高傾向により、採算に影響が出ている。」(織物業)、「年度末の時期だが官庁関連の受注状況が良くない。民間の春のイベント等の需要増に期待したい。」(印刷業)、「事業内容が多様化し、デジタル主体の波が押し寄せる時流の中で、世代交代の様子が新入りが入れ替わる時期こそ、社内でのコミュニケーションが重要になってくる。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料業界では中小メーカーの倒産話が多く入ってきており、取引先の一社が先日倒産し、業況の悪化が深刻化している。」(婦人・子供服小売業)、「昨年3月は中旬に20℃を

超える日があったが、今年は寒い日が続いた影響で、衣料の売上不振となり春物の値下げが拡大。気温の影響で桜の開花が遅れ、3月下旬の花見需要は少なく、関連商品の売上は上昇せず。春分の日の3連休は天候に恵まれるも消費は低迷。プレミアムフライデー効果は0に等しい。」(その他の各種商品小売業)、「SNSの効果でひなまつり関連の受注が前年よりも増加した。」(菓子・パン小売業)、「店舗により増減はあったが、全体では売上は微増となった。」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新年度に向かい、従業員の確保は順調に出来たが、業務に適切できるか懸念がある。今後も長期間従事していただけるよう教育をしていきたい。」(その他の飲食料点小売業)、「春闘を終えて夏のボーナスの見込みが良かったこともあり、夏旅商戦が活発化している。注目の旅先や家族向け商品の発売・充実で販売に力を入れていく。4月に名古屋にオープンするレゴランド・ジャパンやJR東日本が実施するデステイネーションキャンペーン(7月～9月)対象の信州方面への旅行が見込まれる。」(旅行業)、「お客様からの問い合わせ数が安定してきている。また、問い合わせから契約までもスムーズにまとまっている。販売物件の確保が徐々に難しくなってきた。」(不動産管理業)、「直近の計画として、ビルの経年劣化に対する設備更新、修繕費用の再投資を予定、資産価値の維持向上を図ることによって貸貸者のニーズに対応していく。」(不動産賃貸・管理業)、「年度末案件を消化中。市場ニーズに合った商品創りが急務となってきた。来年度の計画を立て直す時期に来ていると考えている。」(ソフトウェア業、などのコメントが寄せられた。

【3月の景気キーワード】

◎仕入価格高騰

各業種より、「原材料価格は、高騰のまま推移している。病院建設、医療設備更新での建材注文が増加傾向。」(特殊産業用機械製造業)、「仕入価格の上昇があり、利益減少。」(酒場・ビヤホール)、「主力の野菜の仕入れ値が上がってきている。」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

◎受注単価減少

各業種より、「仕事量は安定しているが、受注単価は下げられている。経費の増加で

収益が減少し、長期的な見通しは不透明。」(電気工事業)、「先の受注見通しが少なく、売上減少傾向にある。新規の物件は少ないが、リフォーム・建替物件の受注が増えている。ただ、受注競争が激しく施工単価が下落している。」(その他の職別工事業、などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「組立人員不足が発生しており、しばらく継続が懸念される。」(その他の機械・同部品製造業)、「市内を中心に

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (3月速報)

調査期間：平成29年3月16日～23日

調査対象：全国の423商工会議所が2979企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善。先行きは回復の力強さ欠き、足踏み続く

3月の全産業合計の業況DIは、▲20.1と、前月から+3.9ポイントの改善。堅調な民間工事に加え、公共工事に持ち直しの動きが見られたほか、電子部品や自動車関連の好調な生産が全体を牽引した。一方、消費者の節約志向や人手不足の影響拡大を指摘する声が多く聞かれるなど、中小企業のマインドには依然として鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲19.5（今月比+0.6ポイント）とほぼ横ばいを見込む。インバウンドを含む春の観光シーズンの消費拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に期待する声聞かれる。他方、消費の一段の悪化や人手不足の影響拡大、原材料・燃料価格の上昇による収益悪化などへの懸念から、中小企業においては業績改善に確信を持っていない企業が依然として多く、業況感は足踏みが続く見通し。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業でほぼ横ばい、その他の4業種で改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「東京オリンピックと再開発関連の発注が多く、売上は改善した。各社で技能工を中心に人材の取り合いとなっている。人手不足に対応するため、IoTを用いた生産性向上を検討している」（一般工事業）、「補正予算により防災関連を中心とした公共工事の発注が始まった。受注を確保できたため、当面は売上の安定が見込める」（土木工事業）、「業務量に比べて人手が足りず、外注依存度が高まっている。外注費増加に伴う、採算悪化により、業況は改善しない」（塗装工事業）

の動きも悪く、売上の改善は見込めない」（衣料品製造業）

【卸売業】「海水温の上昇などによる漁獲高の減少が深刻で、供給不足となり、売上が悪化した」（水産物卸売業）、「原材料となる銅や原油価格の持ち直しを背景に、価格転嫁が進み、売上が回復し始めた」（ケーブル・化成成品卸売業）

ですべての注文を受けられない。大手運送会社が運賃改定を実施すると報じられたため、当社も運賃改定を視野に入れた」（運送業）、「2月の大雪の影響が残る、宿泊予約が低調のままとなっている。地域全体の観光客数も減少が続いている」（宿泊業）

【小売業】「男性客が選びやすいような売場案内や情報発信に努めるなど、ホワイトデー商戦に力を入れ、成果を得たものの、消費者の節約志向は根強く、婦人服や高額品販売に苦戦し、全体の売上は前年に比べ減少」（百貨店）、「来店客数が多く、化粧品の上は増加している。先月のプレミアムフライデーでは、女性会社員の姿が期待したほど多くはなかったため、今後は地域の企業にプレミアムフライデーが浸透することを望む」（化粧品小売業）

【製造業】「引き続き取引先の輸出が好調で、売上は安定しているが、原油価格や鉄鋼などの原材料価格が上昇傾向にあるため、採算は改善しない」（自動車部品製造業）、「販売先の小売店で冬物衣料が売れず、大量の在庫を抱え込んでしまった。春物衣料

【サービス業】「売上の低迷が続いていたが、学校や企業の送別会の予約が開始したこと、売上に若干の回復の兆しが見られる」（飲食業）、「貨物量は多く、売上は増加しているが、ドライバー不足

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
11月	▲22.9	▲11.0	▲18.2	▲26.4	▲38.5	▲20.3
12月	▲21.7	▲12.7	▲19.6	▲22.5	▲38.2	▲14.6
1月	▲23.0	▲16.7	▲13.9	▲25.4	▲42.0	▲18.5
2月	▲24.0	▲14.6	▲17.1	▲32.5	▲40.4	▲18.6
3月	▲20.1	▲9.6	▲12.8	▲24.2	▲40.5	▲14.7
見通し	▲19.5	▲16.7	▲15.3	▲24.2	▲35.4	▲9.6